

## 国語

(建設技術科 一般選考)

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

雑草の成功戦略を一言でいえば「逆境×変化×多様性」であるだろうと私は考えている。それでは、逆境と変化と多様性という三つの「ヨウソ」について、それぞれ見ていくことにしよう(＊)。

「逆境」とは「逆境をプラスに**テンじる力**」である。

たとえば、踏まれながら生きるとは、多くの人が雑草に持つイメージだろう。

中でもオオバコという雑草の戦略は**秀逸**である。オオバコは、舗装されていない道路やグラウンドなど、踏まれやすい場所によく生えている。じつは、オオバコは踏まれやすい場所に好んで生えているのである。

オオバコは競争に弱い植物なので、他の植物が生えるような場所には生息できない。そこで、他の強い植物が生えることのできないような、踏まれる場所を選んで生えているのである。

オオバコは踏まれに強い構造を持っている。オオバコの葉は、とても柔らかい。硬い葉は、踏まれた**衝撃**で傷つきやすいが、柔らかい葉で衝撃を吸収するようになっているのである。しかし、柔らかいだけの葉では、踏まれたときにちぎれてしまう。そこで、オオバコは葉の中に硬い筋を持っている。このように、柔らかさと硬さを併せ持っているところが、オオバコが踏まれに強い秘密である。

茎は、葉とは逆に外側が硬くなかなか切れない。しかし、茎の内側は柔らかいスポンジ状になっていて、とてもしなやかである。茎もまた硬さと柔らかさを併せ持つことによって、踏まれに強くなっているのである。

ヘルメットが、外は固いが中はクッションがあつて柔らかいのと、まったく同じ構造なのである。

「柔よく剛を**セイす**」という言葉がある。見るからに強そうなものが強いとは限らない。柔らかく見えるものが強いことがあるかも知れないのである。

昆虫学者として有名なファールブルは、じつは『ファールブル植物記』もしたためている。その植物記の

なかで、ヨシとカシの木の物語が出てくる。

ヨシは水辺に生える細い草である。ヨシは突風に倒れそうになったカシの木にこう語りかける。カシはいかにも立派な大木だ。しかし、ヨシはカシに向かってこう語りかける。「私はあなたほど風が怖くない。折れないように身をかがめるからね」

日本には「柳に風」ということわざがある。カシのような大木は頑強だが、強風が来たときには持ちこたえられずに折れてしまう。ところが、細くて弱そうに見える柳の枝は風になびいて折れることはない。弱そうに見えるヨシが、強い風で折れてしまったという話は聞かない。柔らかく外からの力をかわすことは、**強情**に力くらべをするよりもずっと強いのである。

柔らかいことが強いということは、若い読者の方にはわかりにくいかも知れない。正面から風を受け止めて、それでも負けないことこそが、本当の強さである。ヨシのように強い力になびくことは、ずい生き方だと若い皆さんは思うことだろう。

しかし、風が吹くこともまた自然の節理である。風は風で吹き抜けなければならぬ。自然の力に逆らうよりも、自然に従って自分を活かすことが大切である。

この自然を受け入れられる「柔らかさこそ」が、本当の強さなのである。

オオバコは、柔らかさと硬さを併せ持つて、踏まれに強い構造をしている。

しかし、オオバコのすごいところは、踏まれに対して強いというだけではない。

オオバコの種子は、雨などの水に濡れるとゼリー状の粘着液を出して膨張する。そして、人間の靴や動物の足にくっついて、種子が運ばれるようになっているのである。オオバコの学名はPiantago。これは、足の裏で運ぶという意味である。タンポポが風にノせて種子を運ぶように、オオバコは踏まれることで、種子を運ぶのである。

よく、道に沿ってどこまでもオオバコが生えているようすを見かけるが、それは、種子が車のタイヤ

などについて広がっているからなのだ。

こうなると、オオバコにとって踏まれることは、耐えることでも、克服すべきことでもない。もはや踏まれないとコマ<sup>h</sup>まるくらいまでに、踏まれることを利用しているのである。

「逆境をプラスに変える」というと、「物事を良い方向に考えよう」というポジティブシンキングを思い出す人もいるかも知れない。

しかし、雑草の戦略は、そんな気休めのものではない。もつと具体的に、逆境を利用して成功するのである。

A、雑草が生えるような場所は、草刈りされたり、耕されたりする。ふつうに考えれば、草刈りや耕起は、植物にとっては生存を危ぶまれるような大事件である。しかし、雑草は違う。草刈りや耕起をして、茎がちぎれちぎれに切断されてしまうと、ちぎれた断片の一つ一つが根を出し、新たな芽を出して再生する。つまり、ちぎれちぎれになったことによって、雑草は増えてしまうのである。

また、きれいに草むしりをしたつもりでも、しばらくすると、一斉に雑草が芽を出してくることもある、じつは、地面の下には、膨大な雑草の種子が芽

を出すチャンスを伺っている。一般に種子は、暗いところで発芽をする性質を持っているものが多いが、雑草の種子は光が当たると芽を出すものが多い。

草むしりをして、土がひっくり返されると、土の中に光が差し込む。光が当たるということは、ライバルとなる他の雑草が取り除かれたという合図でもある。そのため、地面の下の雑草の種子は、チャンス到来とばかりに我先にと芽を出し始めるのである。

こうして、きれいに草取りをしたと思っても、それを合図にたくさん雑草の種子が芽を出して、結果的に雑草が増えてしまうのである。

草刈りや草むしりは、雑草を除去するための作業だから、雑草の生存にとっては逆境だが、雑草はそれを逆手に取って、増殖③してしまうのである。何ともしつこい存在なのだろう。

(稲垣栄洋『植物はなぜ動かないのか』による)

\*「変化」と「多様性」については、引用した部分の後の文章で述べられている。

問一 — 線部 a～j のカタカナの部分は漢字に直し、漢字の部分は読みをひらがなで書きなさい。

問二 A に入る接続詞として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア なぜなら

イ しかし

ウ また

エ たとえば

問三 〰線部①「秀逸」、②「したためて」③「増殖」は、ここではどのような意味を表していますか。あとのア～エから、それぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

① 秀逸

- ア 人々の考えをこえる不思議なこと  
イ 他のものとは比べられないほどひどいこと  
ウ 人々の興味を引かないようなこと  
エ 他のものより抜きん出て優れていること

② したためて

- ア 書き記して  
イ 売り出して  
ウ 参考にして  
エ 悪く言って

③ 増殖

- ア 増えて多くなること  
イ 増えるように工夫すること  
ウ 自然に増えなくなること  
エ 減らすための手段をとること

問四 〰線部①「オオバコ」について、筆者の説明と合っているものには「○」を、あっていないものには「×」を書きなさい。

- a 人などに踏まれやすい場所に好んで生えている植物である。  
b 他の植物が生えるところで生き延びて増殖する、競争に強い植物である。  
c 葉と茎ともに、外側は硬く、内側が柔らかい構造をもっている。

問五 〰線部②「オオバコのすごいところ」として筆者は二つ挙げている。それぞれ、簡潔に書きなさい。

問六 この文章で述べられていることの説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 植物の世界は強いものと弱いものの差があり、柔らかさをもつ植物は生き延びることができない。  
イ ヨシのように強い力になびくことは、自然に従って自分の力を活かしていると言えることができる。  
ウ タンポポの学名には「足の裏で運ぶ」という意味であり、オオバコと同様の特徴に基づいている。  
エ すべての雑草の種子は暗いところで発芽する性質をもち、土が耕されると枯れてしまうのである。

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

出張仕事か土日にかかる場合、たいてい荷物にランニングシューズを入れる。

これは「走りたい！」という前向きな気持ちではなくて、土日にはぜったいに走らないといけないう強迫観念の故である。

私は走るのが嫌いだ、<sup>①</sup>どうやら気が散る何かがある、その嫌いさも減じるらしい。スポーツクラブのランニングマシンでも、テレビがあればなんとか40分続けることができる。マラソン大会も、まったく景色の変わらない道をオウフクすると、まったく知らない町なかを走るとでは、つらさばかりか疲れも違う。見たことのない景色に目を瞠<sup>みは</sup>っていると、疲れることも忘れてしまうようである。

だから、出張先で走る、今ふうに言えば「旅ラン」は私にはなかなか合っている、と自分でも思う。

私ははじめて出張にランニングシューズを持っていったのは、長野<sup>\*①</sup>の高遠へ行ったときだ。ブックイベントにマネかれて、一泊で出かけたのである。

一泊した翌朝、まったく知らない町を走ってみた。町があり、山があり、山を上がっていくと神社があったり城址公園があったりして、走っていることを忘れるくらいだった。ひととおりに帰ってきたところを、イベント主催者の北尾トロさんとばったり出くわした。「えっ、走ってきたの!？」と驚かれたときの、あの消え入りたような恥ずかしさはなんだろう。

このときはじめて、私は「走っているところを、できれば知り合いに見られたくないし、知られたくない」自分に気づかされた。得意でもなく、好きでもないことを、さも得意げに(得意げではないのだが)やっついていそうな自分を、見られたくないのだらう。

② 高遠で気をよくした私は、あちこちにランニングシューズとウェアを持っていくようになった。

走るのに適した道、というのは本当に各地にある。そのことに感動する。京都はいつけんそんな道などなさそうだが、鴨川<sup>かもがわ</sup>沿いをずーっと走っていけばまったく飽きない。函館<sup>はこだて</sup>は坂の町で、アップダウンが激しく、ランニングには向いていなそうだが、のぼりは歩いてよし」などとルールを作ったゆっくり走れば、観光名所を巡ることができてものすごくたのしい。坂の町といえは長崎もそうなのだが、海沿いは気持ちがいい。奈良は奈良公園を走り、金沢は

観光名所を縫いつなぐように走った。

毎年、ある仕事で山形にいつている。たいてい土日の一泊なので、ランニングシューズを持っていくとし、いつもはつととする。はじめてこの仕事で山形にいったとき、ランニングシューズを持っていくと話したら、山形在住の人が大笑いしたのである。「今のキセツ<sup>g</sup>に走れるわけがない、ものすごい雪だから」と言うのだ。

関東で生まれ育った私は、雪がそこまで<sup>①</sup>すごいことをソウテイ<sup>h</sup>したことがない。「そんな大げさな……」と思いつながら出かけてみると、たしかにものすごい積雪量だった。相手の言うことを信じず、ひそかにランニングシューズを持ってきた自分が、どれほどの馬鹿なのか思い知らされた。

③ それなのに、冬の山形は雪が積もるといふことを私は忘れてしまうのである。翌年呼ばれたのも冬で、また、走れますかと地元の人に訊き、A<sup>□</sup>に付きました。そしてその翌年もまたころりと忘れて、走れますかと私は訊いたのである。

あまりに不憫<sup>びん</sup>に思ったのか、その翌年、ようやく春に呼んでもらった。4月である。桜が咲いているという。桜の名所もあるという。到着日、私はそのコースを聞いて頭に叩きこみ、ようやくこの町を走ることができると思つて眠りに就いた。

翌朝起きて、ホテルの窓から外を見て仰天<sup>i</sup>した。なんと! 雪が<sup>j</sup>つっているではないか。④ 何かの間違いだらうとホテルの外に出てみるが、やっぱ雪。桜が咲いているのに、雪。異常気象らしい。山形よ、ぜったいのぜったいに私に走らせない気か……と、愕然<sup>がく</sup>とした。

その次の年、秋に呼んでもらつて、本当にようやく、走ることができた。

ランニングコースにいいと数年にわたつて聞かされていた霞城公園<sup>かじょう</sup>が、一面紅葉に染まってそれはうつくしかった。霞城公園は1周すると2・5 kmほど。2周しても5 kmではもの足りない。駅をくぐり抜けて、七日町までいつて帰ってくるぐらいがちょうどいい。と、そんなことを覚えるほど、以後は幾度も走っている。

(角田光代『なんでわざわざ中年体育』による)

\*①高遠……長野県伊那市にある地名。

問一 — 線部 a く j のカタカナの部分は漢字に直し、漢字の部分は読みをひらがなで書きなさい。

問二 — 線部①「すごい」、②「大きな」、③「冬」、④「積もる」の品詞は何ですか。次のア〜エの中から、それぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア 名詞
- イ 動詞
- ウ 形容詞
- エ 形容動詞

問三 — A に熟語を入れると、「ばかにして問題にしない」という意味になる。A に入る漢字二字を書きなさい。

問四 — 線部①「気が散る何かがあると、その嫌いさも減じる」とあるが、「気が散る何か」の例として挙げているものを、文章中から二つ抜き出さなさい。

問五 — 線部②「高遠で気をよくした私」とあるが、「気をよく」させたものは何ですか。その説明として最も適切なものを、次のア〜エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 土日は「走りたい!」という前向きな気持ちが満たされたうれしさ
- イ ランニングシューズとウェアを忘れずに持ってこれたという満足感
- ウ 知らない町を走って感じた走っていることを忘れるくらいの楽しさ
- エ イベントの主催者が知らないことを実行できたことに対する優越感

問六 — 線部③「何かの間違いだろう」について、以下の各問に答えなさい。

- (一) 「私」が「何かの間違い」と思ったのは、どのような景色を見たからですか。簡潔に説明しなさい。
- (二) 「何かの間違いだろう」という表現には、「私」のどんな気持ちが表れていますか。簡潔に書きなさい。

三 次の文章を読んで、あとの各問に答えなさい。

秋は A。夕日のさして山の端はいと近う①（ちかう①）なりたるに、鳥からすの寝どころへ行くとして、三つ四つよ、二つ三つなど、飛びいそぐさへあはれなり②。まいて雁かりなどのつらねたるが、いと小さく見ゆるはいとをかし。日入り果てて、風の音、虫の音など②、はた言ふべきにあらず。  
〔枕草子〕による

問一 〓線部①「ちかう」、②「あはれ」の読み方を、現代仮名遣いで書きなさい。

問二 A に入る言葉を書きなさい。

問三 〓線部①「飛びいそぐ」とあるが、飛んでいるのは何ですか。次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 夕日                      イ 鳥                      ウ 雁                      エ 虫

問四 〓線部②「はた言ふべきにあらず」の現代語訳として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア これは言いたくなくなるほどみじめである。  
イ これは言いたくなくなるほど嘆かわしい。  
ウ これもまた言いようもないほど不思議である。  
エ これもまた言いようもないほど趣深い。

問五 『枕草子』について、次の各問に答えなさい。

(一) どの時代に書かれた随筆作品ですか。次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 奈良時代                      イ 平安時代                      ウ 鎌倉時代                      エ 江戸時代

(二) この作品の作者名を漢字で正しく書きなさい。

四 次の①から⑤の――線部の漢字として適切なものを、後の「――」の中の文字からそれぞれ一つずつ選び、解答欄に記入しなさい。

① 野生動物の保護について、注意を喚<sup>レ</sup>キした。

「起 氣 喜 期 期」

② 十分に休養したため、病気がカ<sup>レ</sup>イ方に向かった。

「解 開 快 会 介」

③ 相手のイ<sup>レ</sup>向を尊重しながら話し合う。

「以 意 移 威 遺」

④ 議会の同意を得て、条約が発<sup>コ</sup>ウした。

「酵 行 幸 光 効」

⑤ 正<sup>ト</sup>ウな権利を行使する。

「答 党 当 陶 討」

五 次の①～⑤までの空欄に、――線部の言葉がカッコの中の意味になるよう、後の語群にある漢字一字を入れて慣用的な表現を完成しなさい。

① いいことは（ ）を移さず<sup>レ</sup>に実行するべきだ。 「間をあけず、すぐにということ」

② （ ）をさす<sup>レ</sup>ようなことを言っ<sup>レ</sup>てはいけない。 「うまくいっていることにけちをつけること」

③ 彼は（ ）を割<sup>ッ</sup>た<sup>レ</sup>ような性格の持ち主だ。 「性格がさっぱりしていること」

④ 犯人が誰かは（ ）を見るよりも明らかだ。 「きわめて明らかで、疑う余地がないこと」

⑤ この値段で（ ）を打<sup>ツ</sup>の<sup>レ</sup>がいいだろう。 「ほどほどのところで合意すること」

〔語群〕

軍 玉 皿 時 竹 心 手 火 水 群

受験番号	
氏名	
※	

一

問六	問五	問四	問二	問一	
	○	a		f	a
		b	問三		
			①	g	b
		c			
			②	せて	じる
				h	c
			③	る	い
	○			i	d
				う	
				j	e
					す

※

二

問六	問五	問四	問二	問一	
(一)		○	①	f	a
				きない	
			②	g	b
			③		
				h	c
			④		
				i	d
(二)		○			
				かれて	
				j	e
				って	

※

三

問四	問一
	①
問五	
(一)	②
(二)	
	問二
	問二

※

四

①
②
③
④
⑤

※

五

①
②
③
④
⑤

※



受験 番号	
氏名	

**解答例**

一

問六	問五	問四	問二	問一		
イ	○(例)踏まれに強いこと	a	エ	f	a	
		○		要素		
		b		ごうじょう	b	
		×		①	乗	転
		c		エ	せて	じる
		×		②	h	c
○(例)踏まれることで種子を運ぶこと		ア		困	かた	
		③		る	い	
		ア		i	d	
				ちが	しょうげき	
				う	e	
				j	制	
				とうらい	す	

□

二

問六	問五	問四	問二	問一	
(二)	ウ	○(例)テレビ	①	f	a
			ウ	あ	きょうはく
			②	き	ない
			エ	g	b
			③	季節	きら
			ア	h	c
(二)		○(例)見たことのない景色		想定	往復
		イ		i	d
		問三		ぎ	招
		一		ょう	か
		笑		てん	れて
				j	e
				降	しゅ
				って	さい

□

三

問四	問一
エ	①
	ちこう
問五	②
(二)	あわれ
イ	問二
(二)	(例)夕暮れ
清少納言	
問三	
イ	

□

四

①	起
②	快
③	意
④	効
⑤	当

□

五

①	時
②	水
③	竹
④	火
⑤	手

□